



2021年3月14日主日礼拝メッセージ

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【神の豊かな知恵と祝福を頂ける道】

説教者：鄭南哲牧師

聖書の本文：列王記第一三章3-15節・暗唱聖句：ヤコブの手紙1章5節 (Rev. Jung nam-chul)

<1. 神の知恵が必要で大切な時代>

聖書はたえずわたしたちにその知恵の大切さ、知恵ある者として、賢く人生を送ることをすすめています。特に知恵の書と呼ばれる、箴言には知恵の大切さをよく強調しています。

（箴言3章13-15、18-19節）『13 幸いなことよ、知恵を見出す人、英知をいただく人は、14 知恵で得るものは金で得るものにまさり、その収穫は黄金にまさるからだ。15 知恵は真珠よりも尊く、あなたが喜ぶどんなものも、これとは比べられない。18 知恵は、これを握りしめる者にはいのちの木。これをつかんでいる者は幸いである。19 主は知恵をもって地の基を定め、英知をもって天を堅く立てられた。』

（箴言4：6-7）『知恵を捨てるな。それがあなたを守る。これを愛せ。これがあなたを保つ。7 知恵の初めに、知恵を買え。あなたが得たものすべてに換えて、悟りを買え。』

箴言16：16 『知恵を得ることは、黄金を得るよりはるかに良い。悟りを得ることは、銀を得るよりも望ましい。』

新約聖書の使徒の働き6章でも主に仕える働き人に要求される資格の二つが出ていますが、それは「聖霊と知恵に満ちていること」になったほど、神の人にはただ聖霊に満たされているだけでなく、知恵も持たなければならないように教えられていました。

それほど、知恵は大切なことです。今日我々もその知恵が切に必要ではありませんか。

神と人生を正しく知る智恵、神の御心を正しく分別できる智恵、神から預けられたこの人生の最後を正しく備える智恵、どう生きるべきか、危機の時をどう乗り越えられるかの知恵、人間関係の知恵、多くの選択の時の知恵、物事をよく見極める知恵など人の一度の人生、短い人生ですが、その中には測り知れないほど神の多くの知恵が必要とされています。

今日を‘高速情報の時代’だと言えるほど、今日はさまざまな情報に満ち溢れています。マスコミ、パソコン、インターネット、スマホ、本、YouTube等々溢れるほどの情報の洪水の時代となっています。現代の人たちはどちらがもっと多く、もっと早く、正しい情報を集め、適切に活用出来るかがその人や会社での評価される能力だと言われている時代になっています。言いかえりますと、今日は情報や知識に溢れています。確かに知識の面においては昔の人々たちより、今日の人々がもっと多くのいろんな分野において頭がよくきれるかも知れませんが、知恵に関してはいかがでしょうか。愛するみなさん！切実に私たちに必要とされることが多くの知識よりも、人生の様々な問題や悩む事が多い中、物事を正しく判断し、見分けられる知恵ではありませんか。知恵という単語は知識という単語と共通点はありますが、決して同じ意味ではありません。知恵というのは知識以上のものです。‘知恵’の意味を一言で言うなら、それは与えられた情報を用いて状況などを正しく判断する能力だと言えるでしょう。人生の中、人が実際もっと生きるためもっと必要なのは知恵だと信じます。

<2. 祈りを通して神の知恵を頂いた一ソロモン王>

今日の聖書に出ている信仰の人物の中で“一番知恵ある体表的な人、一番賢い人”だったと言うなら、みんなが迷わず当然ソロモン王だと言えると思います。彼は確かに知恵ある神の人でした。今日もパソコンのインターネットで知恵という単語を検索するとかならずソロモンという名前が言及されるほど、知恵の代名詞として言われています。

彼は箴言3000句を語り、1005曲の歌を作りました。政治・社会・動植物学・法律学・建築学に至るまで卓越した才能を持っていました。それだけではなく、彼は当時戦車1400台を製作し、12000人の騎兵（きへい）率（ひき）いた軍事戦略の面においてもすばらしい知恵を持った人物でした。そのソロモンの知恵について人々が彼を恐れるほどの知恵を持っていたと聖書は証言しています。第一列王記3章28節です。『全イスラエル人は、王が下（くだ）したさばきを聞いて、王を恐れた。神の知恵が彼のうちにあって、さばきをするのを見たからである。』

愛する信仰の家族のみなさん！ここでこの御言葉をとして一つ教えられる点があるでしょう。それはソロモン王が持っていたその知恵というものは生まれつきのものではないということです。つまり、彼が持つようになった知恵は生まれつきからの自らのものではなく、神様から与えられたものであることが分かります。今日の本文はそのすばらしい神様の知恵を彼がいったいどのように頂くことができたのかよく教えて下さっています。

ソロモン王はいったいどのようにして知恵ある者になったのでしょうか。今日の本文は彼の知恵の源泉（げんせん）は礼拝と祈りという通路によって頂いたということがわかります。聖書はソロモン王が神を愛し、礼拝と祈りを通して神の知恵をいただき、知恵ある者になったと教えて下さっています。多くの人たちはソロモンの富と栄華とその知恵をうらやましがっています。しかし、いざ、彼の礼拝と祈りについて注目し、うらやましがるとはそんなに多くいないようです。特に、ソロモン王の知恵はまさにその祈りから与えられたことを覚えると、我々は彼の祈りに注目して見る必要があるでしょう。なぜなら、今日我々も神様から知恵を頂いたソロモンの祈りのように、それに従って我々もその原則

通りに祈ればならず、私たちも神の知恵を頂けるからです。神様は今日私たちにも昔ソロモン王に与えられた神の知恵を我々に与えようとするため、今日の御言葉の出来事を具体的に残して下さいと信じます。それではソロモン王はいったい神様にどんな祈りをささげていたのでしょうか。

今日の本文では神の知恵を頂いたソロモンの祈りの特徴について三つのことを考えて見たいと思います。

①ソロモンの王は神を愛したため、持続（じぞく）的に礼拝し、祈られた人でした。

今日の本文ではソロモンは何か必要な時、緊急な時にだけ祈った人とは違いました。本文の4節を見ると「王はいけにえをささげようとギブオンへ行った。」と書かれています。愛するみなさん、「ギブオン」というところはエルサレムから北西（ほくせい）方向に約10km離れた高原地帯丘（こうげんちたいおか）の海拔高度（かいばつこうど）約722mのところ。現代の地名はエルジブ（Eljib）というところですが、ここでソロモン時代のソロモンが聖殿が建てられるまで、そこで神にささげたように見える当時の祭壇と遺物（いぶつ）などが発掘（はっくつ）されるほど、当時ソロモン王がいつもそこで神様を礼拝し、祈りをささげた場所という痕跡（こんせき）であり、証拠が残されているわけです。

そして、続けて4節で彼はソロモン王は神様に一千頭（いっせんとう）、千匹の全焼のいけにえ（神への完全な献身を意味）をささげたと書かれています。みなさん千匹もいけにえとして燃やすために、一匹ずつ考えると、相当の時間が必要だったでしょう。しかし、そこでソロモン王はそのところから離れず、その場でつづけてこの相当の日々を礼拝し、祈りを続けていたことが十分わかります。

どうしてソロモン王がそこまでしたのかその理由に3節を注目して見てください。3節の始めに、“彼は主を愛し”ためでした！『ソロモンは主を愛し、父ダビデのおきてに歩んでいた。ただし、彼は高きところでいけにえをささげ、香（こう）をたいていた。』ソロモン王が“高きところでいけにえを捧げ、香をたいていた”としました。これは原語としてもうちよっと正確に翻訳すると、「ずっと、香をたきながら祈り、礼拝し続けていた。」という意味になります。

愛するみなさん！ソロモンが王になって、神様に全焼のいけにえとして、千匹の牛や羊を神様にささげたのはソロモン王がもっていた自分の財物、財産、時間や力を神様と周りの人々に誇らしく誇示（こじ）させようとするためではありません。もしそう思っていたならば、わざわざ大変なのに、このギブオンまでのぼっていかないで、エルサレムで、多くの人たちの前でパーティを開いて、お金を使ったほうがもっと自己誇示ができたのではないのでしょうか。それとも実際自分が祭司でもないのに、祭司たちに任せてもいいのに、どうして、直接こんなにエルサレムから離れた、こんな高いところまで上って、それとも全焼のいけにえ一千頭を直接全部燃やしささげるのに少なくとも一週間以上かかるのに彼はわざわざそうささげたのでしょうか。

それはソロモン王がただ神様に何かを自分の求めたい、ほしがるものがあって求めるためではなく、心から神様を愛したためであることが分かります。

クリスチャン信仰生活において守るべき一番大事なことは何であるとイエス様は教えて下さいましたか。

マタイの福音書22章36-40節には、

「36『先生。律法の中でどの戒めが一番重要（じゅうよう）ですか。』37イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』38これが、重要な第一の戒めです。39『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。40この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

イエス様が一番神様との関係の中で大切なのは、「心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」と言われました。それは、まず、神ご自身の愛が我らにそのようであり、今もそのように我々を愛しておられるから、そう命じて下さったわけであります。この愛する心が大切です！！みなさんは今どんな心で礼拝を捧げているのでしょうか。最近どんな心で祈っていらっしゃいますか。

礼拝、祈りというは単なる儀式や形ではなく、父なる神を心から愛するその関係を表すしるしであるべきなのです。

Ex)愛する信仰の家族のみなさん！心から愛した経験がみなさんにもあったでしょう。その愛する人ともっと一緒にいたい、もっと愛する人と話したい、その人の声を聞きたい！と切実に願われ、ついにずっと一緒にするために、結婚し夫婦関係となるのではありませんか。

一度はみな恋に落ちいた時があったと思いますが、恋する人がいるとしきりに会いたくなりますよね。私も結婚前、その時は、婚約者だった妻は宣教師で日本に、私は韓国に離れて3年間遠距離の交際をした時がありました。その時はいかに会いたかったのか声だけでも聞きたくて、ほぼ毎日、毎晩後国際電話ですごした時がありました。それでもその時は約20年以上の前で、その時の韓国での伝道師の謝礼がわずか3万円ぐらだったのに、十分の一献金捧げてからは、ほぼ国際電話代で全部使われてしまいました。しかし、決してそのお金がもったいないとは思ったり、惜しいとも一切思わなかったのです。それだけではなく、愛する人に会うために、一年間、一所懸命にお金をためて年に一度はかなら

ず、日本に来たことがありました。どうしてですか。あまりにも愛したゆえに、どんな犠牲をはらっても、何でも喜んで行動に移ることができたのではないのでしょうか。

今日の本文のソロモン王がもっとそうでした。どんなイスラエルの王よりも、神様を心から愛したため、千匹のいけにえを持って、神の御前に出て、ひたすら続けて祈り、礼拝に専念することができたのではないのでしょうか。

ソロモン王がひたすらこのように王になっても、変わらず神を愛し、続けて祈られたのは、父ダビデの一番大きな影響があったからです。父ダビデがソロモンに残した大切な遺言の言葉を通して、一生父ダビデがどれほど、神を心から愛し続けて、大切に関係を保ち続けて歩んで来たのか自分の息子に伝えられています！

第一歴代誌28章9節を捜し、読んで見ましょうか。『わが子ソロモンよ。あなたの父の神を知り、全き心と喜びのきもち(心)をもって神に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いの動機(どうき)を読み取られるからである。もし、あなたが神を求めるなら、神はあなたにご自分を現される。もし、あなたが神を離れるなら、神はあなたをとこしえまでも退(しりぞ)けられる。』

みなさんは愛する子どもや家族にどんな遺言を残したいですか。人生の中で何を愛し、大切だと見せて、教えているのでしょうか。ですから、ソロモン王の礼拝と特に、祈りは、我々の祈りと、まず違った点がそこで見つけられます！
ソロモン王がたまたま祈ったり、あるいは何か特別に祈り課題や目的があつて祈られたのではなく、父親の時から見て、教えられて、学ばされたように常に神を心から愛したため、礼拝し、祈り続けられたソロモンだったので、ソロモンは神様の御心にかなう祈りを今日祈られていたと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！みなさんも人生の中でソロモン王が神から頂いた神の知恵が必要でしょうか。そして、まず、生きておられる神様との関係をどんな関係よりも、大事にして下さい。神と関係を大事にするということは神を心から愛する事を意味します。心から神を愛する人は、もっと神様といっしょにいたくて、もっと交わり、話したくて神に礼拝し続け、祈り続けられ、それを人生の中でもっとも優先にし、大事にします。
我らが一生、祈り続けられるためには、何があつても神の御前に出て心から礼拝し続けるためには、心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして神を愛さなければ、無理やりにはそう続けられないことを覚えましょう。

未熟な私の経験ですが、熱心に祈っているうちに思い浮かんだアイデアとか考えなどはほとんど間違ったことはありませんでした。しかし、自分の即興的、感情的に浮かんだ考えやアイデアなどは大体失敗やあやまちの時が多かったです。ソロモン王の卓越した神の知恵、多くの人々がうらやましがってたその神からの知恵はまさしく彼のように心から神を愛し、大事に、持続的(じぞくてき)に礼拝し、祈りを持って者に与えられる神様の祝福ではないのでしょうか。

②ソロモン王は謙遜な祈りでした。

礼拝と祈る者が神の祝福と智恵を頂けるためには謙遜な姿勢が必要です。祈りが欠けたり、持続的に祈らない理由の一つは神様の前で自分の弱さ、足りなさ、限界を忘れていたり、自分で神のように何でも出来、自分でやっても問題なさそうだと思いついてしまっている時はないのでしょうか。私の場合は大体そうでございます。先週我々は、ペリシテの巨人(きょじん)ゴリヤテと戦うダビデの姿を通して謙遜について学ばされました！

神の前で謙遜は、自分の弱さ、自分の足りないところや限界を心からよく知り、認め、いつも“あ、神様、今日も助けて下さい。”と助けを求める人であることを。私たちはクリスチャンだと言いながらも、自分の弱さと自分の愚かさ罪深さをよく忘れてしまうため、祈りの必要性を感じられないのではないのでしょうか。特にソロモン王の祈りの中、彼の告白を聞いて見て下さい。

今日の本文、7節を何方か読んで見ましょう。『わが神、主よ。今あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし、私は小さな子どもで、出入りする術(すべ)を知りません。』

ソロモン王は人々の前ではすべての権力と富を手に入れた優れた王でしたが、神の前では自分自身を“しもべ”だと告白しています。これは大事な点ではないのでしょうか。教会の働き人たちも同じくいつも“神のしもべ”としての意識をもたなければなりません。教会も同じです。牧師から始め、や役員、牧者、そしてさまざまなリーダーや奉仕者たちもいつも主に、神の家族たちに仕えられる者ではなく、仕えるための存在であることを忘れてはいけません。それは我らの主イエスキリストが見せて下さった真の姿ではないのでしょうか。

マタイの福音書20章28節です。「人の子(イエスキリスト)が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖(あがな)いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」(Servant leadership)

しかし、愛するみなさん！仕え続けるのにはとても難しいことです。だから、神の知恵が必要とされます。特に人と関わって仕えるためには、知恵がなくては、それぞれ違う、いろんな人々に仕えることがなかなかできません。神様のし

もべとして責任をはたしたかったソロモン王は自分にはそのような知恵がない自分の弱さをよく知っていました。そういうわけで彼は自分自身をしもべ程度ではなく“自分の力では出入りすることすらできない小さな子どもにすぎない”のだと祈りの中で告白しながら、自分の弱さ、無能を神の前でよく認めつつ、助けを求めている謙遜な祈りでした！

今日多くの神学者たちはソロモン王になった歳が、20代前後だったと言われていますが、そんな彼は“自分は小さいこどもで出入りすることができない者”だと告白したのはどういう意味でしょうか。自分自身はどのように振舞えばいいのかも知らない幼い子かのように、つまり、自分はすべて正しくふるまうことができない愚かな者ですから、神様が常に助けてくださらなければならない者であることを正直に、切に求めつつ告白していたのです。

イエス様は「自分が心の貧しい人（であることを知り、認め、神の助けを常に頂ける）者が幸いです。（マタイの福音書5章3節）」とおっしゃいました。つまり、今月の回復の原則の時、一番、先にも告白している内容通り、自分が神ではないということを常に認め、いつも悪いことをしてしまう自分をコントロールする力がないこと、そして自分の人生が手に負えない状態にあることを認める事を主に祈りを通して告白する意味であります。そうした時こそ、まことの回復が始まります。アルコール中毒者は自分がアルコールに今中毒されていることの認め、自覚してからこそ、ようやくまことの治療と回復への向けられると同じでしょう。

自分の弱さ、足りなさ、限界、自分の無知で正直に祈りをもって告白し、神様の助けと知恵を切に求めている人に神様は喜んで天の知恵をお与えて下さると信じます。当時、神みたいな絶対な権力を持っていたソロモン王でしたが、彼は周りの人のことは気にせず、正直で、素直で、謙遜に謙っていました。神様はそのような信仰、祈りを喜んで下さいます。

ヤコブの手紙1章5節『あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。』しかし、みなさん、今日の多くの人たちは、自分の弱さ、限界を正直に認め、自分の愚かさを認めることを恥だと思われる傾向があります。そういうわけで、私たちは、時々知らないのに、知っているふりをしたり、やってないのにやっているふりをしたり、経験してないのにすべてを経験したことがあるような行動をとってしまう時はありませんでしたか。

有名な古代哲学者だったソクラテスは当時知性人たちであった、いわゆるソフィストたちがまるで自分たちはすべてを知っているような、自分たちには知らないことがないような振る舞いをするのを見ながら、心を痛んで悲しみを感じながら、このような有名な言葉を残しました。“彼らは本当は何も知らないのに、自分自身が知らないという自体さえ知らないのか！僕が彼らと違うところが一つあるとしたら、それは僕自身は何も知らないという事実ぐらいはよく知っていることだ。だから、まず、あなた自身をよく知っておきなさい！”

愛するクリスチャンプレイズチャーチみなさん！私たちは神の御前でいつも他の人ではなく、神の御前で、自分自身を探り、自覚しなければなりません。意外と問題は他の人たちではなく、自分が持っていたかも知れません。真の信仰の生活は神様の御前で自分自身を探り、自覚し、自分が変わるように神様に求め、自分と取り組むことではないでしょうか。箴言12章15節「愚かな者は自分の歩みをまっすぐに見える（正しいと思う）。しかし、知恵のあるものは忠告（ちゅうこく）を聞き入れる。」箴言21章2節「人は自分のあゆみがみなまっすぐに見える。しかし、主は人の心を評価される。」

箴言28章13節「自分のそむき（の罪）を隠す者は成功しない。告白して捨てる者はあわれみを受ける。」コリント人への手紙第二13章5節「あなたがたは、信仰に生きているかどうか、自分自身を試（ため）し、吟味（ぎんみ）しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のことを、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。」

神様は我らを祝福し、用いようとされる時に、他の人を変えようとする前に、まず、自分自身をさぐり、自分がまず変わることを望んでおられます。

生きておられ、我々のすべての知っておられる神様の前で、いつも自分自身のありのままを謙遜に認め、深く探り、吟味し、変わり、回復されていくことが真の信仰ではありませんか。家庭内で、職場で、主の教会で、生活の場で知恵ある者として生き、そうなりたいなら、今日生きておられる神様の御前で謙って祈りながらいつも主の助けを求めて下さい。ソロモン王の祈りは謙遜な祈りであったゆえに神様から知恵を頂くことができました。

③ソロモン王の祈りは自己中心的な祈りではなく、利他的（りたてき）な祈りでした。

本文5節です。ソロモン王の祈りの確信の部部でもあります。「ギブオンで主は夢のうちにソロモンに現われた。神は仰せられた。『あなたに何を与えようか。願え。』」とおおせられます。実際ソロモン王はさまざまな願いごとがあったと思いますが、彼は単純に自分の利益のための求めはしませんでした。

ここにキリスト教と他の宗教のちがいがあります。愛するみなさん！他の宗教にも祈りがあります。そしてよく祈りま

す。しかし、その祈りは大体自分の欲望や願い事を求めています。しかし、キリスト教の祈りは神の国とその義のためまず求めるべきであると聖書は教えて下さっています。イエス様は今日も自分に必要なものを求める前に“天にまします我らの父よ。願わくは神の御名が崇められますように、神の御国が来ますように、御心が天になるごとく、地にもなされるように”まず祈る事を教えて下さいました。

マタイの福音書6章33節『神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。』神の国つまり、すべての領域の上に神の統治があり、神様の御心通りに行なわれるように、そして、その義つまり、神様が喜ばれることを知り、行なえるように求めるようにイエスキリストは言われました。

今日我らも、もっと自分自身の祈りの領域（幅）を広げる必要はありませんか。これは決してクリスチャン人々が自分自身のために祈ってはいけないということではありません。しかし、私たちはたとえ自分自身の願い、望みのために祈るにしてもそれで終わらず、究極的に祈りが神様の御心通りにすべてが行なわれ、成し遂げられるものとして用いられなければならないことがキリスト教の真の祈りの精神であることを忘れないようにしましょう。

ソロモン王は今自分に一番必要とされている正しく見極め、分別できる知恵の力を求めています。それを求めた理由は究極的に自分自身のためではありませんでした。

ソロモン王がなぜ神様に知恵を求めていたのかが9節に出ています。

「善悪を判断してあなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、この大勢のあなたの民をさばくことができるでしょうか。」今ソロモン王は神様から自分に与えられている任務（にんむ）と使命、つまり自分に神様から委ねられた民に正しく仕えるために、導くために神の知恵を求めたわけです。神様の御心になかった彼の祈りはついにこたえられ、あらゆる面において彼は卓越した知恵で民を導くことができました。

<3. ソロモン王の祈りにさらなる祝福を与えてくださる神>

今日ソロモン王の祈りに神様はどのようにこたえて下さったのかをしばらくの間、考えて見てメッセージを終わらせたいと思います。

13節を読んでみましょうか。「そのうえ、あなたが願わなかったもの、富と誉れとあなたに与える。あなたが生きていくかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人もない。」

神から委ねられている神の民のため、知恵を求めたということは、さきほどのマタイの福音書6章33節の御言葉によりますと、ソロモンはまず、神の国と神様が喜ばれるその義を求めた御心に適った祈りではないでしょうか。その祈りに神様は実際に御言葉の約束通りにそれに加えて、すべてのものをお与えて下さいました。神様はソロモン王に富と誉れをも与えて下さいました。

それではなく、14章みると、神様はソロモン王に長生きと健康をも許して下さいます。ソロモンは求めなかった人生の必要なすべてを神様はすでにご存知で満たして下さいました。

メッセージを終わらせたいと思います。みなさんは心を尽くし、命を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛していますか。まず、今日から改めて神である主を愛しましょう。そして、その神様と正しく関係を保つために、心から謙遜な姿勢を立たせて、礼拝と祈りを大切に、最優先に続けることを大事にしましょう。今まではただ自分の祈り課題や祝福だけのためにしか祈れなかったならば、これからは神様の御国が自分の人生、家庭だけではなく、主の教会、神の家族や周りの人々上に来ますように私たちの祈りの幅を広げませんか。

ソロモン王がまず、神の民を心配し、彼らのために求めたように、神の愛される家族のため、牧場、教会と関わる周りの人々のためのとりなしの祈る姿勢を必ず祈りの中で覚え、祈りつつ歩むべきではないでしょうか。

今みなさんに自分の弱さや愚かさのため悩んでいますか。そうするなら、自分の足りなさをもったまま謙って主の知恵を続けて求める者に共になって行きましょう。それは決して恥ずかしいことではありません。

却って今も生きておられる神様は喜んで必要な神の知恵と御力を持ってみなさんに答え、与えて下さいます。願わくは、みなさんの人生の中で続けて捧げられる謙遜な祈り、他の兄弟姉妹のためによって、天から神様のおりに適った知恵を頂き、その神様の知恵を生かして、我々に委ねられている多くの人々のために尊く用いられるソロモンのようなみなさん一人ひとりとなる全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族たちとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！



Christian Praise Church